

認知方法の把握と認知方法に応じた授業改善の工夫

いわき市立勿来第二小学校

1 先生方、次の質問にお答えください。(本当は10問あるようなのですが、3問まで)

あなたは、どのタイプ？

日々生活していく中で、それぞれの行動や感じ方には違いがあります。自分の行動パターンや学習スタイルを振り返り、自己理解や他者理解に役立ててみましょう。次の問いの当てはまる記号に、○を付けてください。

- ① 電話でスポーツ店までの道順を聞くことになりました。メモの取り方はどのようにしますか。
 - ア 聞いた内容を言葉でメモする
 - イ 地図を描くようにメモする
- ② スポーツ店に行くのに道に迷いました。
 - ア もとの道にもどって考える
 - イ 何とかなるだろうと考え、歩き続ける
- ③ 新しい家電を買いました。利用の仕方はどのようにしますか。
 - ア 説明書を読んでから操作する
 - イ とにかく操作して覚える

別紙

＜令和元年5月10日 現職教育資料（2）－2＞

2 「あなたは、どのタイプ？」の判定

この調査によって、次のような認知方法による分類ができるそうです。ただし、今回のものは厳密なものではなく、目安程度と考えた方がいいと思います。

アの回答が多かった場合：言葉で理解したり思考したりすることが得意なタイプ
(言語優位)

イの回答が多かった場合：視覚や体験で理解したり思考したりすることが得意なタイプ
(感覚優位)

どちらのタイプでしたか⇒

その結果は、「そうかも」と納得できますか？

3 認知方法に応じた授業方法の工夫

では、先生方、どちらかのタイプを選んでいただき、もし同じタイプばかりが集まっている学級で自分が授業をする場合に、どんなことに気をつけたらいいか、ポイントを書いてみてください。

言葉で理解したり思考したりすることが得意なタイプ（言語優位）	視覚や体験で理解したり思考したりすることが得意なタイプ（感覚優位）

この質問紙や調査に関する実践は、2010年7月の『福島大学総合教育センター紀要第9号』に掲載された「授業づくり」についての校内研究支援の実際～大東中学校の校内研究の例から～」（榊原康夫、石山晃司、宮前 貢）によるものです。